

### 1. 1. 3. 都道府県別冠婚葬祭の作法書にみる地域性

#### ——3つの真宗地帯から

大場 あや

#### はじめに

本稿は、「冠婚葬祭と情報化」というテーマのもと、各地域における婚礼・葬儀の慣習や作法がいかんにか伝えられているのか、生活改善運動や新生活運動における改善項目、および現代の冠婚葬祭の作法書を例に検討するものである。また、こうした規範的な言説を伴う出版物が婚礼・葬儀の慣習に与える影響についても考察してみたい。

筆者はこれまで、明治末期以降の「生活改善」を掲げた諸運動、とりわけ戦後全国的に展開された生活改善運動や新生活運動が、各地域における婚礼・葬儀の慣習にどのような影響を与えてきたのか、先行研究の視点を再検討する形で調査研究を進めてきた。山形県をはじめ、群馬県、栃木県、新潟県、石川県などを対象に、県一市町村一地区の各レベルにおける実践報告書を紐解いていくと、運動の担い手や目標設定、そしてその結果は地域によって非常に多様であることが明らかとなった [大場 2019、2020、2021a, b、2022]。戦後は、市町村・地区ごとの話し合いによって運動目標や改善項目<sup>1</sup>が設定されたため、そこには当時のその地域が抱えていた冠婚葬祭に関する問題意識が反映されている。その意味で、各地域に残る改善項目や実践報告書は、「あるべき姿」が示された「作法書」的資料と言えよう。

他方、本共同研究が着目する冠婚葬祭の作法書もまた、その時代・地域における婚礼や葬儀の「あるべき姿」が示された資料である。とくに戦後、地域社会や家族形態が変容し、専門業者が普及する中で、地域共同体や家庭は伝承母体としての役割を弱めていく。また、人口の流動性が高まり、学校や職場など血縁・地縁以外の関係も広く構築されるようになると、婚礼・葬儀に参列する際の「恥をかかないためのマナー」が求められた。

山田慎也は、近代以降の作法書の分析をとおして、東京で成立した告別式が次第に葬儀の中心的儀礼となって全国に広まっていく様相を描いている。1980年代以降、都道府県別の作法書が刊行されるようになるが、作法書という「支配的言説」によって東京の告別式を「正統な方式」とする認識が地方に浸透し、均質化がもたらされたという [山田 2017 : 378]。

一方、こうした都道府県別の作法書は、従来の東京など大都市中心の作法書に対する「不満」が刊行の動機となっていたことも指摘している [山田 2017 : 371]。であるならば、地元の習俗・慣行を考慮して執筆された都道府県別の作法書には、その地域特有の婚礼・葬儀のあり方が反映されているはずである。告別式の記述に関しては、「同一の定型的な文言」が目立ったというが [山田 2017 : 378]、その他の項目にはどの程度地域性が見られるのだから

---

<sup>1</sup> 例えば、婚礼においては衣装の共同化、披露宴時間の短縮、祝儀額の引き下げ、後振る舞いや引き物の廃止など。葬儀においては香典の減額・廃止、香典返しへの廃止、お斎の簡略化・時間短縮などが挙げられる。

うか。

そこで本稿では、現在までに刊行されている都道府県別の冠婚葬祭に関する作法書とそれに準ずる書籍をリストアップし、全国的な刊行状況を把握する。次に、これまで調査を実施してきた石川県と新潟県、鹿児島県、島根県の作法書における葬儀の記述を対象に、それぞれ地域性がいかに反映されているか検討する。以上をとおして、現代の葬儀における都道府県別作法書の役割ないし位置づけを探る一助としたい。

## 1. 対象と方法

### (1) 浄土真宗の影響

本稿が対象とする各県は、いずれも浄土真宗の信仰が盛んな地域として知られている。いずれも各県の寺院総数のうち真宗各派が4分の1以上を占め、石川県・新潟県では真宗大谷派、島根県・鹿児島県では本願寺派の寺院数が最も多い [森岡 2018 (1962) : 56-60]。

北陸地方は言わずと知れた「真宗王国」である [橋本・林 1987]。島根県の石見地方は、安芸・備後とともに「一大真宗地帯」であり、「北陸とともに日本における二大真宗地帯」ともいふべき地域であるという [島根県教育委員会編 1967 : 34]。鹿児島県は、近世には真宗の布教が禁圧され、幕末には苛烈な廃仏毀釈が断行されたが、近代に入り本願寺派の開教が顕著に進められた地域である [森岡 2018 (1962) : 60]。

浄土真宗の檀家 (真宗門徒) は、他の宗教に対する非寛容な態度から「他宗檀家と異なる一種独特の社会的性格を示す」とされる。在来信仰に対しても「これを否定する傾向が著しい」とされ、森岡清美は、在来信仰の破壊・習合・吸収の一切を含めて習俗の「真宗化」と呼んでいる [森岡 2018 (1962) : 66-85]。

宮本常一も、「真宗地帯は民俗不毛の地などといわれ、民俗学徒はその採訪を喜ばなかった」と述べている<sup>2</sup>。北陸の真宗は道場 (念仏道場) から発達したものが多く、中国地方の真宗は「かつて真言か禅であったものが真宗に転じたというのが多い」。その点で、「かなり先蹤宗教の儀礼をうけついだものが多い」 (原文ママ) という [宮本 2017 (1961) : 24-25]。

真宗の教えや門徒の生活様式は、在来の葬儀や先祖供養に関する習俗・慣行にも影響を与えたことがしばしば指摘されるが、それらは1980年代以降に刊行された各県の作法書の記述にどの程度反映されているのだろうか。真宗に由来する習俗・慣行への言及を分析の際の一つの指標とする。

また、真宗由来のものに限らず、各地域における葬送習俗の特徴を地域史や民俗学関係の報告書等から把握し、それと作法書の記述との比較をもう一つの指標としたい。

本稿は、各作法書の記述内容に主眼があり、先行研究による地域ごとの葬送習俗の検討や

---

<sup>2</sup> 当然ながら、真宗が進出したからといって、在来の信仰や民俗の全てを根絶するわけではないことには注意したい [千葉 1970]。真宗寺院が他宗寺院に比して圧倒的に多い西石見地方の習俗の比較研究を行った桜井徳太郎の論考もある [桜井 1962]。

フィールドワークは考察のための補助的な位置づけにすぎないが、各地域の状況を考慮して作成された冠婚葬祭の作法書に、地域性および真宗の影響がいかんにか反映されているのか、その分析をとおして都道府県別作法書の果たした役割の一端を考察してみたい。

## (2) 都道府県別冠婚葬祭の作法書

本稿が分析に用いる都道府県別の作法書については、前述した山田慎也がその刊行状況などをまとめている。山田は、各作法書の執筆者および発行者の性格を大きく次の3つに分類している。すなわち、①僧侶などの宗教者によるもの、②葬祭業者や結納業者、デパートの消費相談員など儀礼に携わる業者によるもの、③各地の地方新聞社によるものである。このタイプが最も多いという。①は1980年代前半から、②は1980年代後半から刊行が見られる。③はこれに少し遅れて1980年代後半以降、とくに1990年代以降盛んに刊行され、現在でも後続の版が続いているものも多い〔山田2017:373〕。

本稿が対象とするのは、③の流れに連なるものである。すでに触れたように、刊行の動機として、東京や大都市中心の作法書しかないことへの「不満」が述べられ、なかには作法書どおりに行って恥をかいたという声も紹介されるなど、地元の慣習を踏まえた作法書が求められていたことが分かる。また、全国新聞社出版協議会の例会で、地域の特色を踏まえた作法書が出版されていることが紹介され、好評を博しているとの報告があったということも記されている〔山田2017:371-372〕。こうした相互作用により、各都道府県の地方新聞社がこぞって作法書を刊行してきたことが推察される。

ただし、山田の研究は、告別式の全国的な広がり注目したものであったため、特定の地域に作法書と実際の葬儀慣行との比較、あるいは作法書の経年比較を目的としたものではない。

具体的な検討に入る前に、現在の全国的な刊行状況を把握するべく、データベース上の検索結果を表1にまとめた(文末参照)。「国立国会図書館サーチ」および各都道府県立図書館のOPACにて、「都道府県名」「旧国名」「地域名」+「冠婚葬祭」「葬儀」「葬式」「仏事」の組み合わせで検索を行った。加えて、「冠婚葬祭」「礼儀作法」「葬式」の3つの件名検索も並行して実施した。婚礼と葬儀のそれぞれに特化して刊行されているものもあるが、ここでは婚礼関係のものは除外した。検索漏れもあるかもしれないが、おおよその刊行状況は掴めると思われる。

作法書の刊行が見られない地域もあるが、ほとんどの場合、1990年代から2000年代にかけて最低1冊は発刊されていることが分かる。版を重ねているものも少なくない。また、地方新聞社のみならず、地方放送局によるものも多く、特定の人物を著者としているものもある。山田によれば、新聞での連載を再編集して出版したものや民俗学者が関与しているものもあるという〔山田2017:373〕。タイトル・サブタイトルが似通っているものも少なく、「恥をかかない」という文言が6冊に共通している。

本稿が取り上げる各県では、複数冊の作法書が刊行されている。以下でそれぞれ見ていき

たい。

## 2. 鹿児島県の事例

### (1) 鹿児島県における墓参とその規範化

鹿児島県は、江戸期には浄土真宗の禁教化、幕末維新时期には苛烈な廃仏毀釈の断行により1,600以上の寺院全てが廃寺、全僧侶の還俗、そしてその後の真宗西本願寺派の普及など歴史的に宗教政策に翻弄された地域である。葬送習俗の特徴としては、主に鹿児島県南部において毎日あるいは毎日朝夕の墓参を行う慣習があることでも知られている。これらの特徴は、新生活運動の実践要項や地元発行の作法書においていかに表れているのだろうか。

報告者がこれまで行ってきた生活改善運動・新生活運動の調査では、改善項目などに婚礼や葬儀に関する事項が必ずといっていいほど記載されている一方、仏壇祭祀や墓参りに関する事項はほとんど見られないことが分かっている。ただし、戦中期になると、「先祖祭祀」「祖先崇拜」「敬神崇祖」といった文言とともに、仏壇や墓における祭祀を行うよう記載された資料も見受けられる。

一方、墓参と墓前の供花が派手なことで知られる鹿児島県の新生活運動の実践要項を見ると、多くの地域で墓に関する項目が見られる。その内容は、婦人会や子供会による「墓の清掃」（日置郡郡山町里岳）、盆行事の「因習打破」として「墓前のだんご豆等供物廃止」「灯の数の制限」「祖先崇拜 宗教心の啓培」「仏壇墓地の清掃美化と礼拝」（薩摩郡鹿屋村小牟田）、「祖先の霊を祭る気持を失わないよらにして（原文ママ）形式的な無駄を改める」（西之表市住吉）などである〔鹿児島県新生活運動協議会 1961〕。

ただし、墓前の供花に関する事項は意外にも見られない。鹿児島県の中でも枕崎市や指宿市など南薩地方における墓花の見事さは地元新聞でも報じられ（『南日本新聞』1982年7月7日など）、観光バスが立ち寄るほどである。こうした慣習は、「花合戦」「花競争」とも呼ばれ、戦後に始まったものであることは分かっているが具体的な時期は定かではないという〔佐々木編著 2017：85〕。

『上屋久町の民俗』（1992年）においても、「忌中の四十九日間の節制は昔の方がずっと厳しかったが、墓参の頻度自体は現在の方が多い」「背景には信仰心の薄れと余暇の増大があるだろう」「なにやら本末転倒の感が否めない」と述べられる。「花をきれいに飾っておく競争のようなもんだ」との語りを受け、「見栄だけで花を供えるというのは、月4千円もかかるという花代がもったいない」とも述べている〔下野編 1992：289〕。

佐々木陽子は、枕崎市における調査から、墓守役のジェンダーと、その労働的な側面、近年の簡素化の傾向を指摘している〔佐々木編著 2017：83-101〕。枕崎市では、「墓参りは女のつとめ」との言葉が聞かれるほど、各家の「嫁」の仕事の代表格であった。毎朝（夏場は朝夕）丘の上にある墓地へ急坂をよじ登るようにして墓参する慣習があり、当時「嫁」の立場であった高齢女性たちは今でも花を持参して墓参する地域が残る。「花代は相当な負担」「花代かせぎにパートにでる」「夏は朝夕水換えで仕事も出来ず大変」という言葉も聞かれ

るといふ。そして綺麗に活け、枯らさずに保っておけば「良い嫁」と評価され、反対に墓を綺麗にしないと「バチがあたる」とか「栄えない」等の悪口を言われる。墓参りは女の仕事という規範が強いためか、男性たちは人に会わないよう朝の4時や5時にこそそと墓参りをするといふ。

しかし近年では、こうした負担を軽減するため、暑さに強い枝もの・葉もの・実ものを中心としたり、造花へシフトしたり、花活けを1つのみ使用するなど工夫がなされている[佐々木編著 2017: 92]。また、佐々木は、墓地（地域共同墓地）が「誰の目にも触れるという意味での一種の公共圏」である点に注目し、「地縁の強さ」と「花を豪華に供えることが、死者なり祖先を大切にしていると外部に示すものとしての効果」によってこうした慣習・規範が維持されていることを指摘する。当該地域における共同墓地の「共同」とは、地縁の強さゆえ、「共」に「同」じく花を豪華に飾らなければならないという規範に変容したとする。

鹿児島県南薩の旧山川町（現指宿市）での共同調査を行った福ヶ迫加那は、高齢化が進み、経済的・身体的などの複合的な理由から、墓花を活けることを当然視する共同墓地から花を活けないことを条件にした共同納骨堂へ移行した事例を考察している[福ヶ迫 2010]。佐々木は、この事例を「生花を飾らない」という「共通の選択」をすることで「共」に「同」じ（＝共同）を実現した例であると述べる[佐々木編著 2017: 100]。報告者の調査においても、これまで実現が難しいとされてきた香典返しの廃止を、群馬県は地域全体で一斉に実行することで実現させたことが分かっているが、その状況が類似している。

また、佐々木は、墓参りする嫁は「良くできた嫁」と見られてきたため、毎日の墓参りは舅姑から解放され嫁同士の息抜き・交流の場ともなっていた可能性とともに、墓参りは女の仕事とされてきたことで、それがどれだけ身体的・時間的・経済的に大変であっても家族の問題として受け止められず、「簡素化」へ向けた動きが促進されにくかったのではないかと指摘する[佐々木編著 2017: 99]。

これらの指摘を踏まえると、墓参りが「改善すべき問題」として可視化されにくかったために、新生活運動における改善項目には挙がってこなかったとも考えられる。「墓のメディア性」を論じた問芝志保は、人々の慣習や規範を形作るものは文字資料だけでなく、物質資料もその役目を果たすと指摘しているが[問芝 2020]、同様の現象がこの事例からも見て取れる。

## （2）鹿児島県における冠婚葬祭の作法書

次に、地元の新聞社や出版社が刊行する冠婚葬祭の作法書を見てみたい。

### 南日本新聞社 2001『鹿児島冠婚葬祭 お付き合い百科』

本書は、南日本新聞社が2001年（平成13）に発刊した冠婚葬祭に関する作法書である。「発刊にあたって」では、「冠婚葬祭は、私たちの日常生活に欠かせない儀礼です。しかし、核家族化が進み、親から子へ——と儀式の作法が伝わりにくくなっています。本書では、ケ

ースごとにさまざまな対応やマナーを紹介し、お付き合いの中で役立てていただければと考えて編集しました」とある〔南日本新聞社 2001：8〕。南日本新聞社開発センターが、県内の全市町村、ホテル・結婚式場、葬儀社等にしきたりやお付き合いの現況、各儀礼の費用、香典、お布施の目安などをアンケート調査し、南日本新聞社の各支社・支局からの情報もあわせて、その結果をまとめたものである。

構成としては、「婚」「お祝いごとと年中行事」「お付き合い」「葬」となっており、「葬」は、79 ページが割かれている。「葬」パートでは、大きく「一般弔問者へのマナー」「危篤と臨終」「通夜」「葬儀・告別式」「葬儀後」「葬の予備知識」の6つに別れている。目次は以下のとおりである。

○「一般弔問者へのマナー」

■通夜への出席

故人をしのぶ通夜・通夜ぶるまい／通夜出席時の服装／故人との対面／世話役の役割・注意点／〔豆知識〕危篤の知らせを受けたら／礼装と礼服

■葬儀・告別式

参列の準備・一般参列者の服装／香典・香典袋の上書き／香典の金額／〔豆知識〕葬儀場受付でのあいさつ／香典の郵送

■お別れの作法

仏式・焼香／焼香の仕方／神式・玉串奉奠／キリスト教式・献花／弔辞を頼まれたら・弔辞の内容・弔辞を読むとき／火葬場への同行・弔辞文の例／弔電を打つ／供花／法要に招かれたら・年賀欠礼状を受け取ったら／〔豆知識〕数珠／忌み言葉／弔問の手紙／香典返しを受け取ったら／社葬参列のマナー

\*鹿児島島の葬儀…古式ゆかしい神式の葬儀／野辺送り

○「危篤と臨終」

■臨終の前後

危篤の連絡・危篤電報／末期の水・湯灌・死化粧・死装束／病院以外での臨終・死亡の通知・遺体の引き取り／献体・臓器提供／神式の臨終前後・キリスト教式の臨終前後／〔豆知識〕N T T 緊急定文電報の文例／献体・臓器提供の窓口／遺族の心を癒やす病院

■葬儀の準備

葬儀社との打ち合わせ・葬儀社の商品とサービス／寺・神社・教会への連絡・死亡届と火葬・埋葬許可証／喪主の決定・世話役の依頼・弔辞を頼む／新聞広告・遺影を依頼する／〔豆知識〕喪章／写真技術の進歩

■納棺

仏式の枕飾り／仏式の納棺・仏式の戒名（法名）／神式の納棺・キリスト教の納棺・神式枕飾り・キリスト教式枕飾り／〔豆知識〕枕経／みたまうつし

○通夜

## ■通夜の準備

仏式の通夜・通夜の準備／通夜の席次・通夜の流れ／通夜のあいさつ／神式の通夜祭・キリスト教の通夜／〔豆知識〕通夜の服装／通夜ぶるまい

## ○葬儀・告別式

### ■葬儀と告別式

葬儀の日程・葬儀の席次／葬儀・告別式の服装／最後の対面・釘打ち・出棺／喪主あいさつ／火葬場へ・火葬場での納めの式・骨あげ／遺骨を迎える準備／火葬場から帰ったら・精進落とし・神式葬儀の意味と手順／キリスト教式葬儀／葬儀の費用／社葬と遺族・社葬の運営・事前に密葬・社葬費用／〔豆知識〕葬儀と告別式は別／ひつぎ／心づけ／密葬

\*鹿児島の葬儀…与論島の改装／奄美の祭り上げ／三島・十島村の葬儀／弁当持って墓参り／大声で泣く葬儀にまつわる言葉

## ○葬儀後

### ■葬儀の締めくくり

喪の期間一忌と服・形見分け／香典返し・香典返し品／盆提灯／法事用のお菓子／納骨・位牌

### ■法要・墓・仏壇・神棚

四十九日まで・年回忌／神式の法要一霊祭・キリスト教の法要／年賀欠礼とお歳暮／墓／仏壇・仏壇の選び方・仏壇の置き方／神棚／〔豆知識〕初盆／キリスト教の祭壇

## ○葬の予備知識

### ■遺言・遺産相続・生命保険

■仏式の流れ・神道の流れ・キリスト教の流れ／法要などの一覧・葬儀における世話役の仕事／死去に伴う補償請求／死去に伴う名義変更等／葬儀関連情報／社会福祉協議会

途中で挿入される「鹿児島の葬儀」と題されたコラム（下線部）では、鹿児島の昔ながらの葬送や島嶼部の特徴的な葬送習俗が紹介されている。

## 斯文堂株式会社出版事業部 2001『鹿児島の冠婚葬祭 いざというときに迷わない・困らない・恥をかかない』

本書は、斯文堂株式会社が「平成12年10月に鹿児島県内の20～40代の男女600人に行ったアンケート結果と、鹿児島在住の各方面で活躍されている方々への取材をもとに、新しい鹿児島の常識とマナーを冠、婚、葬、祭の4つに分けて紹介」したものである。「この本を通して鹿児島に住むすべての人、特に若い人に冠婚葬祭のマナーに興味を持って頂ければ幸いです」と述べられている〔斯文堂株式会社2001：3〕。

構成は、「冠」「婚」「葬」「祭」の4パートに分かれており、「葬」には47ページが割かれ

ている。

○「葬」

■葬儀を行う／仏式

危篤・死去・納棺／通夜／葬儀・告別式／法要／納骨

■葬儀を行う／神式

死去～納棺／通夜祭・遷霊祭／葬場祭～帰家祭／納骨・霊祭

■葬儀を行う／キリスト教式

死去～納棺／通夜／出棺式・葬儀／火葬・納骨・祈念会

■遺言・遺産相続

遺言・遺産相続

■葬儀に参列する／仏式・神式・キリスト教式

危篤・死去／仏式の通夜／仏式の葬儀／神式の通夜・葬儀／キリスト教式の通夜・葬儀／法要

■葬儀あれこれ

この他、「祭」パートの「お盆」のページでは、鹿児島のお盆の習俗と地域・宗派ごとの差異、お墓参りの仕方と用意するものなどが解説される。巻末には「冠婚葬祭 DATE FILE」として、「結婚式場」「貸衣裳」「葬儀社」「墓石」「霊園」「ペット葬儀社・ペット霊園」「神社」の情報一覧が収録されている。

上掲の2冊とも、仏式（主に浄土真宗西本願寺派）と神式、キリスト教式の葬儀と関連の儀礼が写真や図とともに詳細に説明されている点が特徴と言える。通夜・葬儀・告別式には、どのような仕事が必要で、誰にどのタイミングでどのように依頼すべきか、どのような流れで式を執り行うべきか、挨拶文の文例、ふさわしい衣装・所作、席次、焼香順、葬儀費用やお布施、心付けの金額の例、必要な行政手続き、法要や納骨の行い方、仏壇や墓の選び方などが記載されている。そして、数ページおきに、葬儀・墓関連の業者の広告が掲載され、葬儀社、霊園、墓石店、仏壇店、ペット葬業者とともに、墓相家の広告まで見られる。

しかし、このような詳細な解説がなされる2冊においても、墓参の頻度や墓花については特段言及がない。これは、これらの作法書が、若い世代への冠婚葬祭の慣習やマナーの継承を主旨としたものであるからだろうか。前掲の佐々木や福ヶ迫の研究によると、現在まで墓参を担ってきたのは当時「嫁」だった高齢女性たちであるが、その仕事の大変さから「墓守りは女の仕事」という規範が次世代に引き継がれていないことを端的に示していると言える。

上掲2冊はともに20年以上前に発行されたものであり、その後、紙媒体では同様の書籍は刊行されていないようである。メディア性を持つ墓と共同体墓地が、今後納骨堂に移行さ

れたり、花が綺麗に供えられた墓が減少したりすると同時に、作法書においても墓参りの慣習や規範が触れられなくなると、世代交代とともに1つの慣習がなくなり、記憶されなくなってくるのだろう。

### 3. 島根県の事例

次に、島根県における冠婚葬祭の作法書を取り上げたい。島根県の冠婚葬祭に関する作法書は、これまで2冊刊行されている(表1参照)。1つ目は、えひめリビング新聞社が企画し、鳥取シー・エム・シー シティライフ編集部が発行・企画・編集・制作・データ調査を手掛けた『島根の冠婚葬祭 おつきあいとマナー 島根のしきたりと恥をかかない基礎知識』(ワン・ライン 2009年)である。マナー指導協力として、全日本作法会家督の西谷房枝、現代礼法研究家の園山明生子の2名が代表して明記されている。もう1つは、白石昭臣・酒井董美『島根の冠婚葬祭』(ワン・ライン、2000年)である。これは1994年から翌95年まで山陰中央新報社において連載された「ふるさとの冠婚葬祭」を再録したものであり、他の作法書のような構成をとっていない。よって、ここでは前者のみ作法書として取り上げ、後者は葬送習俗の比較対象として参照することとする。

本書の冒頭には、「この本は従来慣習を踏まえて、今日的な冠婚葬祭「おつきあいとマナー」を中心に編集いたしました」とある。「いざという時にいくら包んでいいのかわからない」というニーズのために、お包み金額は島根県内の東部・西部の2エリアに分け、671のサンプルを集計・分析。より使いやすくするために、結婚式と葬儀については年代、エリア別にまとめました。めやすとしてご利用いただければ幸いです」とあり、祝儀・香典金額については、エリア別の特徴が考慮されている。また、「ここで紹介した情報は、宗教や地域によって多少異なることがあることをご了承下さい」と、宗派・地域による差異にも言及されている[鳥取シー・エム・シーシティライフ編集部編 2009:3]。

以下では、本書のうち葬儀・供養の箇所焦点を絞り、島根県の民俗に関する書籍・地域資料、筆者による聞き取り調査の結果なども比較しながら、その特徴をまとめてみたい。

本書の構成としては、まず巻頭特集として冠婚葬祭の様々な場面におけるお包み金額と金封の表書きなどが説明される。葬儀に関しては、「親」「兄弟」「おじ・おば」「祖父母」「その他 親戚」のそれぞれの葬儀における香典金額の目安が、「島根県内全体」「東部エリア」「西部エリア」「30代まで」「40代以上」に分けて「平均額」「最多回答額と割合」「次に多い回答額と割合」が示される。この他、「隣・近所」「職場の上司」「職場の同僚」「職場の部下」「友人」の葬儀、さらには実家および親戚の墓石建立のお祝い金額、法事のお包み金額の目安についても同様に示されている[鳥取シー・エム・シーシティライフ編集部編 2009:19-24]。なお、宗教の違いについては、仏式・神式・キリスト教式の3つが簡単に触れられる程度である。「ニーズ」があったというこの巻頭特集を見ても、地域や立場、年齢によって〈いくら包むのか〉ということが大きな関心事の1つであることがうかがえる。

その後、「プライダル」、「人生の祝い」、「暮らしの祝いとおつきあい」のパートに続き、

葬儀・供養関係の項目が展開される。目次は以下のとおりである。

葬儀・供養～喪主・喪家・遺族の立場に立った時～

イマドキの葬儀事情と予備知識／喪主・喪家の心得／喪主・喪家がやるべきこと／通夜の仕方／葬儀の流れ／神式の葬儀／キリスト教の葬儀／知っておきたい葬儀豆知識／遺族の喪服／葬儀費用の見方・考え方／葬儀の別途費用／平均的な葬儀費用／喪主の心得とあいさつ集／僧侶や関係者へのお礼／葬儀会社の選び方／葬儀会場の選び方／島根県の主な葬儀会館ガイド／葬儀後のお礼と手続き／初七日から七七日まで／形見分けと寄付／四十九日（満中陰）法要の準備／四十九日（満中陰）法要の仕方／回忌法要の仕方／お墓の知識と準備／お墓の改葬と建て替え／開眼供養の手順と準備／お墓参りと管理／寿陵（生前に建てるお墓）／仏壇の準備・開眼供養／お仏壇の祀り方・拝み方／新盆・新彼岸・年賀欠礼

訃報の知らせを受けた時～通夜見舞いから葬儀参列、ご供養まで～

通夜の参列マナー／葬儀の参列マナー／受付係の仕事とお手伝い／葬儀参列の服装／香典と焼香のマナー／キリスト教葬儀の参列／神式葬儀の参列／弔辞の作り方と読み方／葬儀参列ができない時／法要の参列マナー

ペットとのお別れとその家族のために

家族の一員 大切なペットが死んだ時／ペットの葬儀 ここを教えて

全体的な特徴として、①地域的な特徴はほとんど言及されていない、②宗教による特徴は仏式を中心に、神式・キリスト教式にも言及がある程度である、という2点が指摘できる。①について、意外にも本文中では地域ごとの特徴には触れられていない。項目によっては、県内の読者からの体験談・失敗談などが掲載されているが、その中にいくつかその地域の慣習がわずかに垣間見られる程度である。あくまで一般的なマナーというスタンスでまとめられている。

②については、金封の表書きの違いの他、神式とキリスト教式の式次第や専門用語、参列の仕方がそれぞれまとめられている。仏壇の祀り方に関しては、8宗派分が図示されている。

その他、香典や葬儀の具体的な金額例が記載されていること、行政的な手続きにも言及があること、ペット葬にも言及があること、ほぼ毎ページに地元の冠婚葬祭関係会社の広告が掲載されていること、県内の主な葬儀会館、公共斎場のリストが掲載されていること、などが特徴として挙げられる。つまり、島根県内の施設情報がある以外は、特段、島根県の習俗に密着したような作りとはなっていないのである。

では、島根県の葬送の地域的・宗教的特徴はどのようなものか。ここでは、島根県教育会編『島根県誌』（島根県教育会、1923年）、島根県『新修島根県史』（島根県、1965-1968年）、山陰民俗学会編『島根県下30地区の民俗—民俗資料緊急基本調査報告書—』（山陰民俗学

会、1963年)、島根県教育委員会編『島根県民俗分布図—民俗資料緊急調査報告書—』(島根県教育委員会、1967年)、石塚尊俊『日本の民俗 32 島根』(第一法規、1973年)、大島暁雄ほか編『中国の民俗 島根県編 日本民俗調査報告書集成』(三一書房、1997年)、山陰民俗学会編『山陰民俗叢書 5 葬・墓・祖霊信仰』(島根日日新聞社、1997)、白石昭臣・酒井董美『島根の冠婚葬祭』(ワン・ライン、2000年)、山陰民俗学会編『民俗の行方～山陰のフィールドから』(山陰中央新報社、2012年)などを参照した。

まず、宗旨の分布について、出雲地方東部と石見地方西部に禅宗(臨済宗・曹洞宗)が多く、石見地方の中央部から出雲地方の西の方では圧倒的に浄土真宗が多い。1919年時点では、島根県内の寺院数1332カ寺のうち、浄土真宗が499カ寺(37.46%)を占める[島根県教育会編1923:189-190]。1959年時点の島根県内の宗派グループ別寺院数では、浄土系が623カ寺(45.8%)と最も多く、禅系が487カ寺(35.8%)と続く[小田2003:43]。それに対し、隠岐地方は全般的に神道で統一されており、津和野町や高津川流域など県西部にも神葬祭を行う家が見られる。大社町や大田市川合町には大社教、出雲教が多く、同様に神葬祭が見られる[白石・酒井2000:82、96]。

今回筆者が聞き取り調査<sup>3</sup>を行った石見地方の益田市も真宗門徒の多い地域である。現在の益田市全域に相当する美濃郡では、1919年時点において71カ寺中42カ寺(59.2%)が真宗であった[島根県教育会編1923:189-190]。ここでは石見地方に注目して、葬送習俗の概要をまとめたい。

島根県は真宗の多い地域ではあるが、昭和40年代に各自治体の火葬場が整備され始めるまで土葬を行っていた[浅沼2012:83]。葬儀互助は、地区の組うち(出雲地方では無常講、石見地方では死講などと呼ばれる)が行うところが多く、現在(1994-2000年)も葬儀屋に依頼したとしても、この組による世話のもと自宅での葬儀が行われている[白石・酒井2000:74]。遺族が組の世話人に連絡すると、寺院への通知、枕飯、死亡届、納棺、帳場、通夜、葬式、坪かき(墓穴掘り)、台所仕事、買い出しに至るまで準備や手配を行ってくれる。一方、都市部などの狭いマイホームでは寺院を会場に行い、「最近では専門業者に葬儀を委託する傾向も強くなっています」[白石・酒井2000:76]。「現在、最も多い」寺院での葬儀次第は、

開式の案内、導師・僧侶入場、開式の辞、僧侶読経、弔辞、弔電披露、読経・焼香、導師・僧侶退場、喪主挨拶、閉式の辞、一般会葬者見送り

である。石見地方東部では、友引であっても「目上の者が葬列の先頭に立てばよい」などと言われている[白石・酒井2000:77]。

火葬が増えてくるにつれ、葬儀に先立って火葬をするいわゆる骨葬が普及してきた。西石

---

<sup>3</sup> 2024年3月2日から3日にかけて、益田市北仙道にて実地調査を行った。とくに波田篤男(1947年生まれ)に、かつての葬儀および現在の葬儀について詳しく伺った。

見では、野辺送りの際、家の門で門火を焚き、戦前までは3回まわっていた。このとき女性は忌中髪を結び、親族は綿帽子を被った〔白石・酒井 2000 : 77-78〕。葬儀が終わると、かつては坪かきしてもらった墓穴に土葬したのち、シアゲと呼ばれる直会を行う。

火葬が増えだした頃から、専門の葬儀業者や農協などが入り、組の人々が担っていた役割が軽減されたり、手伝いの日数短縮や台所仕事の簡素化が見られたりした。墓の形態も、個人墓から寄せ墓（総墓）にする家が増え、それに伴って坪かきや野辺送りも見られなくなっている〔浅沼 2012 : 83〕。土葬の頃、坪かきをした5~6人は、シアゲの席では必ず上座に座って接待を受けていた（聞き取りより）。とはいえ、相互扶助の精神は生き続けており、地域のみんなで送っている〔浅沼 2012 : 83〕。

以上のような葬儀手伝いはもちろん、骨葬、友引に関する事など地域的・宗派的特徴に関する事にも、『島根の冠婚葬祭 おつきあいとマナー』には出てこない。その代わり、親戚、友人、上司、部下、近所の方などに「世話役」を依頼することが記されている〔鳥取シー・エム・シーシティーライフ編集部編 2009 : 112〕。

一方、納棺まで遺体を北枕にして寝かせておく際、布団の上に魔除けの刃物を乗せることが『島根の冠婚葬祭 おつきあいとマナー』にも『島根の冠婚葬祭』にも記載されている〔白石・酒井 2000 : 73〕〔鳥取シー・エム・シーシティーライフ編集部編 2009 : 113〕。一般的に浄土真宗では、刃物を乗せないとされているが、上記には宗派に関する言及はなかった。

基本的に、島根県における冠婚葬祭マナー本『島根の冠婚葬祭 おつきあいとマナー』は、地域的・宗派的な特徴をなるべく希薄化し、どの地域においても（全国的に）通用するかなり平準化された「しきたり」とマナーを形成していると思われる。それは本書のマナー指導に協力した担当者がマナーを専門とする人物だからだろうか。本書内の読者投稿の多くは、松江市や出雲市など都市部がほとんどである。香典額等の年齢別（「30代まで」「40代以上」）の分け方を見ても、30~40代にかけて島根県の都市部に移住してきた、あるいは新しく世帯を持った若い世代を主な対象にしていると思われる。

#### 4. 石川県・新潟県の事例

北陸地方は、「真宗王国」と称されるほど、日本において最も真宗信仰の盛んな地域である。石川県における1959年時点での県内の宗グループ別寺院数は、浄土系が997カ寺（75.6%）と最も多く、他宗を圧倒している〔小田 2003 : 41〕。

筆者は、石川県における生活改善運動・新生活運動の展開と冠婚葬祭への影響を調査してきたが、同県では婦人会が婚礼・葬儀に関する取り組みを盛んに行ってきた特徴がある。とくに能美郡では、婦人会が婚礼の衣装貸出のみならず、葬儀の祭壇設営や葬具、衣装の貸出まで担っていたことを報告した〔大場 2021a、2022〕。

ここでは、石川県において刊行された冠婚葬祭の作法書のうち、入手することのできた、北國新聞社編『ほくりくの冠婚葬祭 完全版』（北國新聞社、2005年）を取り上げる。「葬」の目次は以下のとおりである。

危篤から納棺まで

危篤の連絡／末期の水・遺体の清め／遺体の安置／枕飾り・枕経から納棺／世話役の  
依頼

通夜・葬儀の準備

葬儀社の選び方／法的手続き／葬儀の日程・通知／祭壇・遺影の準備

通夜

仏式通夜／通夜の服装／席順／通夜の流れ

葬儀・告別式

葬儀・告別式の流れ／出棺

火葬から遺骨迎えまで

納めの式・骨あげ／遺骨迎え・遺骨勤行

お参りのマナー

受付でのマナー／数珠／焼香／弔辞を依頼されたら

神式葬儀

臨終から通夜まで／通夜差異・遷霊祭／葬場祭／帰家祭・十日祭

キリスト教式葬儀

危篤から通夜まで／葬儀の流れ／命日

宗教によらない葬儀

葬儀の後始末

引き継ぎ・支払い／香典返し・会葬礼状／あいさつ回り／年賀の欠礼

法要

忌明け・納骨／服装／年忌法要／神式の霊祭／追悼ミサ・記念式

諸手続き

相続／保険と年金／遺品の整理・形見分け

香典・供物・供花のマナー

香典／供物・供花

葬儀の費用

葬儀の三大費用／お寺への支払い／葬儀社の費用／互助会

仏壇・神棚・墓

仏壇／神棚／墓地・墓石

地域名を挙げながらその地域特有の習俗が紹介されたり、浄土真宗の作法が触れられている項目には下線を付した。「北陸事情」という小さいコラムが掲載されたページには、二重線を付している。

地域的な特徴についてほとんど言及のなかった島根県の作法書に比べ、地域性および宗

派的特徴への言及が多い。行政的な手続きや葬儀社関連の項目は、より一般的な内容が述べられるにとどまっている。

続いて、新潟県における冠婚葬祭作法書は、初期には浄土真宗の仏事に特化した新潟仏教文化研究会編『真宗門徒 新潟の仏事』（新潟の仏事刊行会、1983年）とその改訂2版（考古堂書店、1987年）、新装版（考古堂書店、2005年）、増補新装版（考古堂書店、2011年）がそれぞれ刊行されている。

また、1990年代に入ると、新潟日報事業社出版印刷部『新潟の冠婚葬祭』（新潟日報事業社出版印刷部、1995年）に続き、『新潟県の葬儀と法要 保存版』（新潟日報事業社、2001年）という葬儀・法要に特化した作法書が刊行される。その後、新装版（新潟日報事業社、2006年）、改訂版（新潟日報事業社、2010年）、新版（新潟日報事業社、2017年）、そして、『よく分かる新潟県の葬儀と法要』（新潟日報メディアネット、2022年）が発表されており、版を重ねている。一つの地域の葬儀・法要関係の作法書がここまで版を重ねることは、表1を通覧してみても珍しいことが分かる。

新潟県も、浄土真宗の存在感が大きい地域である。1959年時点の新潟県内の宗グループ別寺院数は、浄土系が1,373カ寺（47.86%）と最も多く、禅系が797カ寺（27.7%）と続く〔小田2003：43〕。『新潟の冠婚葬祭』の目次冒頭には、「新潟で最も多い浄土真宗を中心に解説、県内各地の儀式の違いも」と記載されている〔新潟日報事業社出版印刷部1995：目次〕。奥付によれば、本書は大田朋子の執筆となっている。大田は、インタビュアー、ライターを経て「新潟方言・郷土史研究家」として活躍し、色彩福祉士や心理カウンセラー等の資格も持つ人物であるという<sup>4</sup>。目次は、以下のとおりである。

#### はじめに／ところ変われば

臨終から告別式まで

仏式の主な葬儀スケジュール／危篤／臨終直後にすること／喪主について／行政上の手続き／遺体安置から納棺まで／戒名／寺院、葬儀社、親族との打ち合わせ／世話役／通夜／葬儀、告別式の式次第例／葬儀、告別式参加の心得／仏式の作法／神式の作法／キリスト教式の作法

香典・喪服・法要など

香典／喪服について／お悔やみの言葉／出棺／火葬とお骨拾い／三十五日忌法要  
葬儀のあと、新盆

お斎／葬儀のあと／葬儀後の三つの手続き／葬儀後の法律的な手続き／埋葬料、葬祭費の受け取り／名義変更とその他の手続き／故人の勤務先の整理／あいさつ回りと礼状の手配／香典返し／遺品の整理と形見分け／忌中と喪中／四十九日の忌明け法要／納骨／墓地／墓石／仏壇について／新盆

<sup>4</sup> 「ラ・ラ・ネット | 指導者 大田朋子」(2024年3月31日閲覧)  
<https://www.lalanet.gr.jp/search/searchdtl.aspx?stdydc=40597>

## 表書きの例

「葬」の「はじめに」では、「郷に入っては郷に従え——とくに葬儀に関しては、地域性がありますので、その地域性を心得て、よりよい供養をしたいものです」とある。さらに、「新潟県の伝統をふまえながら、本県で信者が多いとされる浄土真宗における一般的な葬祭を主体に述べる」とも記されている〔新潟日報事業社出版印刷部 1995：101〕。

島根県の作法書とは対照的に、新潟県のものではその地域性と宗派の特徴を全面に出した作りになっていると言える。例えば、葬儀の一般的な流れとして、「葬儀」→「告別式」→「火葬」を示した上で、新発田市とその周辺、村上市とその周辺、東頸城地方の松代町・松之山町、上越市とその周辺、糸魚川や西頸城地区の特徴がそれぞれ解説される〔新潟日報事業社出版印刷部 1995：102〕。上記の目次において、地域名を挙げてその地域特有の習俗が紹介されたり、浄土真宗の作法が触れられている項目には下線を付している。ただし、表書きや葬儀・告別式参列の心得については、仏式（各宗の特徴含む）、神式、キリスト教式が概説される。

2001年の『新潟県の葬儀と法要 保存版』以降は、版を重ねるたびに、地域性・宗派の違いを記した箇所が徐々に少なくなっていくのが特徴的である。2022年の『よく分かる新潟県の葬儀と法要』に至っては、本文中に具体的な地域名が登場しなくなる。新潟の慣習について言及のある項目は、「骨上げ」において新潟県では骨壺はあまり用いず骨箱へ直接お骨を納めること、およびお斎という呼称に関するわずか2点であった〔新潟日報メディアネット 2022：52-53、99〕。「新潟県では」という一文のみで、具体的な地域名は一切登場しなかった。巻末の「参考文献・資料」には依然、新潟県に関する資料が掲載されているが、葬儀の行い方（25ページ）や参列のマナー（19ページ）に比べて、終活における遺言（23ページ）や、役所等での届け出と手続き（47ページ）、県内地域別葬儀場ガイド（23ページ）の方に比重が移されていると言える。

真宗に関する言及は、遺体の安置と枕飾り〔新潟日報メディアネット 2022：44-45〕、戒名〔同：56〕、仏壇の購入〔同：92〕、お墓参りの時期と作法〔同：101〕、香典の表書き〔同：156、170〕、仏式拝礼〔同：164-165〕の6か所である。地域性への言及に比べて若干多いが、言及のある項目数としては減少している。

以上をまとめると、「真宗王国」とされる石川県および新潟県の作法書は、具体的な地域の習俗や真宗的な慣習に関する言及が多く、地域性がより大きく反映されていると言える。ただし、新潟県の作法書を経年的に検討してみると、時代が下るにつれて少しずつ言及の頻度と分量が減少していることも指摘できる。

## おわりに

以上、鹿児島県、島根県、石川県・新潟県の冠婚葬祭作法書を概観してきた。都道府県別の冠婚葬祭作法書は、1990年代から2000年代にかけて全国的に刊行が相次ぎ、地方の新聞

社ないし放送局による発行が最多である。地域によっては、現在に至るまで版を重ねているところもある。

こうした作法書が 1990 年代以降に盛んに刊行された背景として、1 つには、産業化や核家族化、人口の流動化、社交範囲の拡大などが進み、地域共同体や家庭の継承母体としての役割が希薄化していく中で、葬儀を含む冠婚葬祭をどのように準備し、振舞えばよいか、前提知識を共有しない世代が増加したことが考えられるだろう。

当時は、地域性を反映した情報に対してそれなりにニーズがあったと思われるが、近年はインターネットの普及により比較的簡単に様々な情報にアクセスできるようになった。そのためか、地域性や真宗の特徴を解説するタイプの作法書は（少なくとも本稿の事例では）減少傾向にある。より汎用性の高い「どこに行っても通用するマナー」が求められていると言えよう。近年の作法書では、終活や死亡後の手続等に関して紙幅が割かれるようになってきている。

本稿では、浄土真宗の信仰が盛んな 3 つの地域を対象に、冠婚葬祭の作法書を検討した。石川県・新潟県のように 1990 年代～2000 年代前半頃までは比較的地域ごとの特徴、および真宗の特徴が反映されたものもあれば、島根県のように、ほとんど地域的・宗派的特徴が見られないものもあった。後者に関しては、刊行年が比較的新しいこと、執筆者がマナー講師であることも地域性・宗派性が薄い理由かもしれない。さらに読者投稿欄や香典額等の年齢設定から、島根県の都市部への移住者あるいは新しく世帯を持った 30～40 代を主な対象としていることが読み取れる。鹿児島県の作法書には、鹿児島県南部において「嫁」たち（現在の高齢女性たち）が盛んに行ってきた墓参り慣行への言及が一切見られないことから、世代間断絶が端的に表れている。

各事例の検討においては、年代をはじめ比較項目が統一されておらず、葬儀慣行の調査もバラつきがあるため決して十分な分析ではないが、作法書の全国的な刊行状況や 3 地域の大まかな傾向は掴めたのではないかと思われる。執筆者や発行者の特性にも着目し、各作法書の特徴を位置づけること、また、作法書の規範的な言説と実際の慣行との差異を検討していくことが今後の課題である。

## 参考文献

大場あや 2019 「葬儀をめぐる新生活運動の現在―群馬県・栃木県を中心に―」『株式会社冠婚葬祭総合研究所論文集』平成 30 事業年度(葬祭編)、43-50 頁。

大場あや 2020 「新潟県における新生活運動の展開―冠婚葬祭の簡素化の実践に着目して―」『一般社団法人冠婚葬祭文化振興財団冠婚葬祭総合研究所論文集』令和元年度、46-52 頁。

大場あや 2021a 「石川県における「生活改善」と冠婚葬祭の簡素化―類型化の試み―」『一般社団法人冠婚葬祭文化振興財団冠婚葬祭総合研究所論文集』令和 2 年度、42-66

頁。

大場あや 2021b 「新生活運動と「冠婚葬祭の簡素化」—広報にみる地域住民の論理と「共同化」への動き—」『宗教と社会』27、17-31 頁。

大場あや 2022 「冠婚葬祭における衣装・用具・施設を「共有」するということ—石川県旧能美郡の事例—」『一般財団法人冠婚葬祭文化振興財団 冠婚葬祭総合研究所論文集』令和3年度、29-42 頁。

小田匡保 2003 「日本における仏教諸宗派の分布—仏教地域区分図作成の試み—」『駒澤地理』39、37-58 頁。

桜井徳太郎 1962 「新旧信仰の接触と習俗の変容」和歌森太郎編『西石見の民俗』吉川弘文館、227-272 頁。

千葉徳爾 1970 『地域と伝承』大明堂。

問芝志保 2020 『先祖祭祀と墓制の近代—創られた国民的習俗—』春風社。

宮本常一 2017 (1961) 「真宗と民俗」宮本常一著、田村善次郎編『宮本常一 日本の葬儀と墓—最期の人生行事—』八坂書房、24-33 頁。

森岡清美 2018 (1962) 『真宗教団と「家」制度 新版』法藏館。

橋本哲哉・林有一 1987 『石川県の百年 (県民 100 年史 17)』山川出版社。

山田慎也 2017 「告別式の平準化と作法書」『国立歴史民俗博物館研究報告』205、363-386 頁。

#### < 鹿児島県 >

鹿児島県新生活運動協議会 1961 『新生活のあゆみ 昭和 36 年度 (指定地区実績報告集)』第 9 集、鹿児島県新生活運動協議会。

佐々木陽子編著・山崎喜久枝著 2017 『枕崎 女たちの生活史—ジェンダー視点からみる暮らし、習俗、政治—』明石書店。

斯文堂株式会社出版事業部 2001 『鹿児島の冠婚葬祭 いざというときに迷わない・困らない・恥をかかない』斯文堂株式会社。

下野敏見 1992 『上屋久町民俗資料調査報告書 2 上屋久町の民俗』上屋久町教育委員会。

南日本新聞社 2001 『鹿児島の冠婚葬祭 お付き合い百科』南日本新聞社。

福ヶ迫加那 2010 「墓花から見た墓所の社会的機能に関する一考察—鹿児島県南薩の事例から—」『九州人類学会報』37、35-50 頁。

#### < 島根県 >

浅沼政誌 2012 「葬儀の行方」山陰民俗学会編『民俗の行方—山陰のフィールドから』山陰中央新報社、82-84 頁。

石塚尊俊 1973 『日本の民俗 32 島根』第一法規。

大島暁雄ほか編 1997 『中国の民俗 島根県編 日本民俗調査報告書集成』三一書房。

山陰民俗学会編 1963 『島根県下 30 地区の民俗—民俗資料緊急基本調査報告書—』山陰民俗学会。

山陰民俗学会編 1997『山陰民俗叢書 5 葬・墓・祖霊信仰』島根日日新聞社。

島根県教育会編 1923『島根県誌』島根県教育会。

島根県 1965-1968 年『新修島根県史』島根県。

島根県教育委員会編 1967『島根県民俗分布図—民俗資料緊急調査報告書—』島根県教育委員会。

<石川県・新潟県>

新潟日報事業社出版印刷部 1995『新潟の冠婚葬祭』新潟日報事業社出版印刷部。

新潟日報メディアネット 2022『よく分かる新潟県の葬儀と法要』新潟日報メディアネット。

北國新聞社編 2005『ほくりくの冠婚葬祭 完全版』北國新聞社。

表 1 都道府県別の冠婚葬祭に関する作法書一覧

都道府県	書名	編著者	出版社	刊行年
北海道	北海道の冠婚葬祭	北海道新聞社 生活部編	北海道新聞社	1988
	北海道冠婚葬祭のすべて 実用編 北海道の冠婚葬祭入門		エムジー・コーポレーション	1995
	北海道冠婚葬祭のすべて データ編 北海道の冠婚葬祭情報		エムジー・コーポレーション	1995
	北海道の冠婚葬祭と暮らしのおつきあい	佐藤朝子	北海道新聞社	1999
	北海道発わが家の葬祭 Book 2000 年度版 葬儀・法要・相続がよくわかる		ニュートンハウス	2000
	北海道発わが家の冠婚葬祭 BOOK 2003 年度版 出産・成長・結婚から、葬儀・法要・相続まで		ニュートンハウス	2003
青森	青森県葬儀あれこれ	東奥日報社編	東奥日報社	1986
	あおもり冠婚葬祭事典 地域のしきたりとマナー	盛田稔監修	東奥日報社	1996
岩手	岩手の伝事		岩手日報社	1986
	岩手の伝事 改訂版	岩手日報社出版部編	岩手日報社	1992
	岩手の冠婚葬祭 地域のしきたりと費用	岩手日報社出版部企画編集	岩手日報社	1994

宮城	宮城の冠婚葬祭 しきたりとマナーのすべて	河北新報社編	河北新報社	1992
	宮城の冠婚葬祭 Q&A	プレスアート編	プレスアート	2007
秋田	秋田の仏事	大坂高昭	無明舎出版	1985
	秋田の冠婚葬祭ハンドブック いざというとき役に立つ、マナー&エチケット	アートシステム	秋田放送	1986
	秋田の冠婚葬祭ハンドブック Part 2	アートシステム編	秋田放送	1988
	秋田暮らしの便利帳 御祝儀・不祝儀	マゼンタ編、アド東北企画	秋田放送	2001
	葬儀・葬祭ハンドブック 暮らしの便利帳		秋田テレビ	2007
	ほっとあきた！あんしんガイド 知っておきたい大切なこと・・・秋田の冠婚葬祭・暮らしの歳時記	アド東北企画	A B S 秋田放送	2012
山形	山形の冠婚葬祭 各地のしきたり	山形新聞社編	山形新聞社	1994
福島	ふくしまの冠婚葬祭	ラジオ福島編	ラジオ福島	1994
	ふくしまの冠婚葬祭 改訂版	ケイシーシー編	ラジオ福島	1996
	ふくしまの冠婚葬祭 (歴春ふくしま文庫)	田母野公彦・氏家武夫	歴史春秋出版	2003
	ふくしまの冠婚葬祭	エス・シー・シー編	エス・シー・シー	2009
	ふくしまの冠婚葬祭 最新版 福島のおつきあい BOOK	エス・シー・シー編	エス・シー・シー	2012
茨城	いばらきの冠婚葬祭 すぐ役立つマナーの知識	瀬谷義彦・斎藤平・佐藤次男監修	茨城放送	1996
	茨城のお付き合い百科 慶事と弔事		茨城新聞社	2002
栃木	栃木の冠婚葬祭	下野新聞社編	下野新聞社	1991
	新栃木の冠婚葬祭	下野新聞社	下野新聞社	1998

栃木	とちぎのくらし冠婚葬祭 新時代のマナー&エチケット	CRT栃木放送編	栃木放送	2003
	栃木県の葬儀と法要 完全保存版		下野新聞社	2009
	栃木の葬儀・法要・相続手続きとマナー		ニュース・ライン	2015
群馬	ぐんまの葬祭 旅立ちかた旅立たせかた 葬祭ガイドブック 「通夜・葬儀・法事」を中心に実際に役に立つ情報満載	上毛新聞社出版局編	上毛新聞社	2000
	葬儀・法要群馬のマナー 知っておきたい「常識・非常識」保存版		ニュース・ライン	2009
埼玉	女性のための美しいマナーbook (点字)	井垣利英監修	埼玉県点訳研究会	2007
	冠婚葬祭マナー事典 (点字)		埼玉県点訳研究会	2009
千葉	わが家の安心箱・冠婚葬祭の基礎知識	武内純子	ユニ・ポスト	2003
東京	なし			
神奈川	なし			
新潟	真宗門徒新潟の仏事	新潟仏教文化研究会編	新潟の仏事刊行会	1983
	真宗門徒新潟の仏事 改訂2版	新潟仏教文化研究会編	考古堂書店	1987
	新潟の冠婚葬祭		新潟日報事業社出版印刷部	1995
	新潟県の葬儀と法要 保存版		新潟日報事業社	2001
	新潟の仏事 真宗門徒 新装版	新潟仏教文化研究会編	考古堂書店	2005
	新潟県の葬儀と法要 新装版		新潟日報事業社	2006
	新潟県の葬儀と法要 改訂版		新潟日報事業社	2010
	新潟の仏事 真宗門徒 増補新装版	新潟仏教文化研究会編	考古堂書店	2010
新潟県の葬儀と法要 新版		新潟日報事業社	2017	

新潟	新潟のお葬式とその後 一番よくわかる！(月刊新潟こまち長岡版 3月号増刊)		ニュース・ライン	2018
	よく分かる新潟県の葬儀と法要		新潟日報メディアネット	2022
富山	とやまの冠婚葬祭	北日本新聞社編	北日本新聞社	1992
	新とやまの冠婚葬祭	北日本新聞社出版部編	北日本新聞社	1999
	富山県の葬儀と法要 危篤から通夜・葬儀のマナーやしきたり		富山新聞社	2009
	富山県の葬儀と法要 地元ならではのマナーやしきたり		富山新聞社	2016
石川	北陸の冠婚葬祭	北国新聞社編集局編	北国新聞社	1990
	かが・のとの冠婚葬祭 安心マニュアル	北国新聞社出版局編	北国新聞社	1994
	お葬式のすべて 石川の仏事完全ガイド	米永章	北国新聞社出版局	2000
	ほくりくの冠婚葬祭 完全版	北國新聞社編	北國新聞社	2005
	石川県の葬儀と法要 危篤から通夜・葬儀のマナーやしきたり		北國新聞社	2010
	石川県の葬儀と法要 地元ならではのマナーやしきたり		北國新聞社	2016
福井	福井県の冠婚葬祭	エクシート編	エクシート	1995
	近ごろの福井県の冠婚葬祭	エクシート編	エクシート	2003
	そうさい読本 ふくいのマナーと心得 保存版	メディアプラス風丸編、福井新聞PRセンター制作	福井新聞社・福井新聞販売店会	2013
山梨	なし			
長野	信州の仏事	信州仏教研究会編	銀河書房	1985
	信州の冠婚葬祭 ふれあいの道 するべ	信濃毎日新聞社広告局編	信濃毎日新聞社	1992

長野	信州の冠婚葬祭 ふれあいの道 しるべ		信濃毎日新聞社	1994
	信州の冠婚葬祭 ふれあいの道 しるべ	信濃毎日新聞 社広告局企画	信濃毎日新聞社	1997
	信州の冠婚葬祭	信濃毎日新聞 社広告局企画	信濃毎日新聞社	2000
	信州葬儀の知識		信濃毎日新聞社	2002
	信州の冠婚葬祭 信州のしきたり・ 習慣の常識ガイド	信濃毎日新聞 社広告局企画	信濃毎日新聞社	2006
	信州の葬祭（〔別冊 KUR A〕）	まちなみカン トリープレス 編		2010
	葬祭流儀 長野 VOL.1 ハッピー な人生の終焉を迎えるためのエン ディングマガジン		日本メモリアル 通信	2013
	葬祭流儀 長野 VOL.2 良き人生 のための終活マガジン		日本メモリアル 通信	2015
	長野の葬儀 Vol.1 40代からの 「終活」きっかけガイド 元気 なうちに親子で決めておく相 続・葬儀いま事情		長野こまち	2016
長野の葬儀 Vol.3 しあわせ 「終活」ガイド		長野こまち	2020	
岐阜	葬祭流儀 岐阜 1	日本メモリアル 通信編	日本メモリアル 通信	2013
静岡	静岡県の冠婚葬祭	静岡新聞社編	静岡新聞社	1994
	後悔しないお葬式&お墓 身内の 葬儀に直面している人と100% の確率で“その日”がやってくる すべての人のために	神谷すみ子	静岡新聞社	1997
	新・静岡県の冠婚葬祭	静岡新聞社編	静岡新聞社	1999
	曹洞宗葬儀・法事のしきたりと その由来	柴田芳憲、曹 洞宗静岡県第 一宗務所編集 委員編（田中 良昭監修）	曹洞宗静岡県第 一宗務所内編集 委員会	2004

静岡	冠婚葬祭静岡県の常識（静岡新聞書 006）	静岡新聞社	静岡新聞社	2006
	静岡県の葬儀と法要 危篤から通夜・葬儀のマナーやしきたり		静岡新聞社	2007
	静岡県の冠婚葬祭マナーBOOK		静岡新聞社	2009
	静岡県の終活と葬儀 自分や家族のために	静岡新聞社企画・編集、鈴木真弓、小野崎一綱	静岡新聞社出版部	2022
愛知	名古屋版おつきあい講座 冠婚葬祭マナー	竹内くに子	中日新聞本社	1995
	なごやの冠婚葬祭 名古屋・尾張のしきたりと恥をかかない基礎知識（RK MOOK）		名古屋リビング新聞社	2009
	ライフエンディングぴあ 東海版（ぴあMOOK 中部）		ぴあ株式会社中部支局	2012
	なごやの冠婚葬祭 2017 人生の節目節目に役立つ暮らしのマニュアル辞典（流行発信MOOK）		名古屋リビング新聞社	2017
三重	三重の冠婚葬祭マニュアル すぐに使える！（月刊くじら別冊）		くじら編集室	2005
滋賀	なし			
京都	京都・宇治・城陽地方の儀式作法入門 冠婚葬祭 その心としきたり	岩上力	光琳社出版	1986
	京の儀式作法入門 増補改訂版	岩上力	光琳社出版	1996
	京の儀式作法書 その心としきたり	岩上力	光村推古書院	2002
	京都の葬儀と法要 保存版	京都新聞出版センター編	京都新聞出版センター	2002
	京の儀式作法書 その心としきたり 改訂版	岩上力	光村推古書院	2006
	京のならわし 冠婚葬祭贈礼法 Q&A	岩上力	光村推古書院	2009

大阪	大阪神戸の冠婚葬祭 しきたり・相場・おつきあい 結納・結婚・人生の祝い・贈答・新築・葬祭・供養・お見舞い 最新お包み金額データ付き		サンケイリビング新聞社	2002
兵庫	兵庫の冠婚葬祭	神戸新聞総合出版センター編	神戸新聞総合出版センター	1992
	ひょうごのお葬式 葬祭ハンドブック	神戸新聞総合出版センター編	神戸新聞総合出版センター	1997
奈良	なし			
和歌山	わかやまの冠婚葬祭 しきたり・相場・おつきあい		和歌山リビング新聞社	2002
	新わかやまの冠婚葬祭 和歌山のしきたりと恥をかかない基礎知識		和歌山リビング新聞社	2004
	わかやまの冠婚葬祭 マナーとお金		和歌山リビング新聞社	2007
	わかやまの冠婚葬祭 マナーとお金		和歌山リビング新聞社	2011
	新わかやまの冠婚葬祭 結婚式や葬儀の基礎知識 県内のしきたり		和歌山リビング新聞社	2012
	わかやまの冠婚葬祭 結婚式や葬儀の基礎知識が丸わかり		和歌山リビング新聞社	2014
鳥取	とっとりの冠婚葬祭 おつきあいとマナー 鳥取のしきたりと恥をかかない基礎知識	鳥取シー・エム・シー シティライフ編集室編・企画	鳥取シー・エム・シー	2004
	とっとりの冠婚葬祭 こんな時どうする？冠婚葬祭Q&A		鳥取シー・エム・シー	2006
	とっとりの冠婚葬祭 大人のおつきあい入門「鳥取の常識」BOOK		鳥取シー・エム・シー	2010

鳥取	とっどりの冠婚葬祭 最新版 鳥取のお包み金額のめやす・しきたり・おつきあい (第4版)		鳥取シー・エム・シー	2014
島根	島根の冠婚葬祭 家蔵版	白石昭臣・酒井董美	ワン・ライン	2000
	島根の冠婚葬祭 おつきあいとマナー 島根のしきたりと恥をかかない基礎知識	鳥取シー・エム・シーシテ ィーライフ編集部編	ワン・ライン	2009
岡山	岡山の冠婚葬祭	山陽新聞社編	山陽新聞社	1990
	岡山の冠婚葬祭 新版	山陽新聞社編	山陽新聞社	1996
	大人のおつきあい 岡山版 マナー&アイデア BOOK		KG 情報	2015
広島	「慶弔時のおつきあい」を考える マナーとギフト情報を中心に	ひろぎん経済研究所編	ひろぎん経済研究所	1990
	ひろしまの冠婚葬祭	中国新聞社編	中国新聞社	1992
	ひろしまの冠婚葬祭 改訂第2刷	中国新聞社編	中国新聞社	1995
	新・ひろしまの冠婚葬祭	中国新聞社編	中国新聞社	1996
	ひろしまの葬祭と墓地 創刊 葬祭や墓地のお悩みを解決するネットワーク情報誌 保存版	トーク出版編	トーク出版	2001
	冠婚葬祭ひろしまの相場としきたり 結納・結婚・出産・人生の祝い・贈答・新築祝・供養・お見舞	広島リビング新聞社編	広島リビング新聞社	2001
	おつきあいとマナー 広島のしきたりと恥をかかない基礎知識 冠婚葬祭ひろしまの相場としきたり 第2版	広島リビング新聞社企画・編集	広島リビング新聞社	2003
	冠婚葬祭 広島県人のための基本マナー 「人生の節目」の常識から「暮らし」の常識まで これで解決!こんなときどうしたら?Q&A	大進冠婚葬祭相談室編	大進冠婚葬祭相談室	2011

広島	大人のおつきあい マナー&アイデア BOOK 家族を持つ女性のための冠婚葬祭お役立ちガイド 広島版	KG 情報編	KG 情報	2015
山口	なし			
徳島	徳島の冠婚葬祭	徳島新聞社編	徳島新聞社	1995
	おつきあいBON 暮らしハンドブック		エフエム徳島	2009
香川	おつきあいとマナー 冠婚葬祭 かがわの相場としきたり	高松リビング新聞社	高松リビング新聞社	2004
	香川の冠婚葬祭	四国新聞社	四国新聞社	2006
愛媛	冠婚葬祭松山の相場としきたり 松山の最新のお包み相場と実用知識のハンドブック	えひめリビング新聞社編	えひめリビング新聞社	1992
	冠婚葬祭松山の相場としきたり 松山の最新お包み相場とすぐ使える実用知識	えひめリビング新聞社編集・制作	えひめリビング新聞社	1992
	えひめの冠婚葬祭 しきたり・相場・贈り物	えひめリビング新聞社編集・制作	えひめリビング新聞社	1997
	えひめの冠婚葬祭 しきたり・相場・おつきあい 第4版		えひめリビング新聞社	1999
	新・えひめの冠婚葬祭 しきたり・相場・おつきあい		えひめリビング新聞社	2001
	おつきあいとマナー えひめの冠婚葬祭 第6版	えひめリビング新聞社企画・編集・制作	えひめリビング新聞社	2003
	えひめの冠婚葬祭 大人のおつきあい入門「愛媛の常識」BOOK 第9版	えひめリビング新聞社企画・編集・制作	えひめリビング新聞社	2009
	えひめの冠婚葬祭 最新版愛媛のおつきあいBOOK 第10版	えひめリビング新聞社企画・編集・制作	えひめリビング新聞社	2011

愛媛	えひめの冠婚葬祭 最新版愛媛のお包み金額のめやす・しきたり・おつきあい 第11版	えひめリビング新聞社企画・編集・制作	えひめリビング新聞社	2013
	えひめの冠婚葬祭 最新版・愛媛のおつきあい・しきたり・冠婚葬祭マナーBOOK 第12版	えひめリビング新聞社企画・編集・制作	えひめリビング新聞社	2016
	えひめの冠婚葬祭 最新版・愛媛のおつきあい・しきたり Q&A 第13版	えひめリビング新聞社企画・編集・制作	えひめリビング新聞社	2018
高知	土佐の冠婚葬祭	岩井信子	高知新聞社	1983
	高知の冠婚葬祭読本	和田書房 月刊「土佐」編集室	高知新聞社	1996
	高知の冠婚葬祭読本 第2版	和田書房 月刊「土佐」編集室	高知新聞社	2001
	冠婚葬祭 こうちの相場としきたり		イープレス高知	2001
	冠婚葬祭 こうちの相場としきたり 結納・結婚・出産・人生の祝い・贈答・新築祝・供養・お見舞 特別保存版		イープレス高知	2001
	高知の冠婚葬祭 おつきあい百科	岩井信子監修	高知新聞社	2008
福岡	冠婚葬祭博多のしきたり	波多江五兵衛	西日本新聞社	1974
	福岡県の冠婚葬祭 県内各地のしきたり	西日本新聞社	西日本新聞社	1993
	福岡マナーブック 冠婚葬祭 基本編		アプリケイツ	2008
佐賀	さかの冠婚葬祭	豊増幸子	佐賀新聞社	1981
	新佐賀の冠婚葬祭	佐賀新聞社編	佐賀新聞社	1992
	佐賀の冠婚葬祭 マナー百科	佐賀新聞社出版部ほか編	佐賀新聞社	2002

佐賀	地元の冠婚葬祭 葬祭編	西日本情報センター編	西日本情報センター	2005
長崎	葬儀葬祭ハンドブック 暮らしの便利帳		テレビ長崎	2008
熊本	熊本の冠婚葬祭	熊本日日新聞社編	熊本日日新聞社	1989
	熊本の冠婚葬祭	熊本日日新聞社編	熊本日日新聞社	1992
	新・熊本の冠婚葬祭		熊本日日新聞社	1996
	熊本の冠婚葬祭		熊本日日新聞社	2001
	熊本県の葬儀と法要 最新版		熊本日日新聞社	2013
	よく分かる熊本県の葬儀と法要改訂版	熊本県葬祭事業協同組合監修	熊本日日新聞社	2023
大分	おおいたの冠婚葬祭		大分合同新聞社	1992
	新・大分の冠婚葬祭		大分合同新聞社	1997
	大分の冠婚葬祭 しきたり、傾向、費用		大分合同新聞社	2003
	おおいたの冠婚葬祭 最新版 しきたり、傾向、費用		大分合同新聞社	2010
	おおいたの冠婚葬祭 最新版 しきたり、傾向、費用		大分合同新聞社	2015
宮崎	宮崎の冠婚葬祭	宮崎日日新聞社史編纂委員会	宮崎日日新聞社	1993
鹿児島	鹿児島の冠婚葬祭お付き合い百科		南日本新聞社	2001
	鹿児島の冠婚葬祭 いざというときに迷わない・困らない・恥をかかない		斯文堂株式会社出版事業部	2001
沖縄	沖縄の迷信 いざ冠婚葬祭というときのために	名幸芳章	月刊沖縄社	1981
	沖縄・冠婚葬祭の手引 いざというとき役に立つ本	那覇出版社編集部編	那覇出版社	1982
	沖縄の冠婚葬祭	那覇出版社編	那覇出版社	1989

沖縄	沖縄・暮らしの大百科 冠婚葬 祭・年中行事・風水	那覇出版社 編・崎間麗進 監修	那覇出版社	2004
----	-----------------------------	-----------------------	-------	------